



# これまでの主な検討の経緯と今後の検討の方向性（案）

---

2022年12月16日  
事 務 局

## 第二次とりまとめまでの検討の経緯

- コンテンツモデレーションの運用に関し、プラットフォーム事業者による透明性・アカウントビリティの確保に不十分な点が見られたことを踏まえ、「透明性・アカウントビリティの確保方策に関する行動規範の策定及び遵守の求めや法的枠組みの導入等の行政からの一定の関与について、速やかに具体化することが必要」と取りまとめられた。

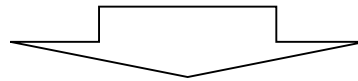


## 今後の検討の方向性

- コンテンツモデレーションに関する透明性・アカウントビリティ確保のあり方について、具体的にどのような仕組みが考えられるか（例：何をどのように開示させるのか）、検討してはどうか。
- 違法・有害情報の流通が引き続き深刻である実態を踏まえ、これらを実効的に抑止する観点から、透明性・アカウントビリティの確保以外の対策についても、過剰削除の懸念や表現の自由の萎縮を防ぐ観点も十分考慮した上で、プラットフォーム事業者の役割について検討することが必要ではないか。
- 検討にあたっては、海外における議論も参考にしつつ、プラットフォーム事業者及び被害者との対話を図りながら行うことが必要ではないか。

## 第二次とりまとめまでの検討の経緯

- 偽情報対策に関するヒアリングにおいても、プラットフォーム事業者の透明性・アカウントビリティの確保状況に不十分な点が見られ、「偽情報への対応に関する透明性・アカウントビリティの確保に向けて、行動規範の策定及び遵守の求めや法的枠組みの導入等の行政からの一定の関与を具体的に検討することが必要」と取りまとめられた。
- また、フィルターバブルやエコーチェンバーといったSNS等のプラットフォームサービスの特性についても検討が行われ、攻撃的な傾向への誘導やフェイクニュースの拡散、社会的分断を生じうるとの指摘があった。



## 今後の検討の方向性

- 偽情報に対するコンテンツモデレーションに関する透明性・アカウントビリティ確保のあり方の具体的な検討に向けて、まずは、プラットフォーム事業者等のステークホルダーによる自主的な対応について追加的にヒアリングを実施し、関係者間で参照しやすい取組集をまとめ、それを踏まえて検討することとしてはどうか。
- フィルターバブルやエコーチェンバーといったSNS特有の現象の影響についても、プラットフォーム事業者等からヒアリングしつつ、検討を進めてはどうか。